羊飼いの心

■羊たちをあわれむ

羊飼いは、主イエスの性質の一つであり、御国のリーダーシップの一つです。
イエス自身は大牧者ですが（ヘブル13・20、１ペテロ５・４）、成熟した弟子たちもまた「羊飼いの心」を持つ小牧者たちです。羊飼いの心の最大の特徴は「あわれみ」です。

また、群衆を見て深くあわれまれた。彼らが羊飼いのいない羊の群れのように、弱り果てて倒れていたからである。（マタイ9・36）

この聖句の「あわれまれた」の原語スプラグニゾマイの原意は「腸が動く」です（腸は、愛とあわれみの感情の源と考えられていました）。日本語風に言えば「腸（はらわた）がちぎれるような強烈な思い」です。
弱っている人、疲れ果てている人、迷っている人、正しいリーダーがいない人、などを見たときに、このように感じることが羊飼いの心です。

■良い羊飼いの７つの特徴（ヨハネ10章）

①割り当てられた羊への責任感

「まことに、まことに、あなたがたに言います。羊たちの囲いに、門から入らず、ほかのところを乗り越えて来る者は、盗人であり強盗です。しかし、門から入るのは羊たちの牧者です。（ヨハネ10・1-2）

門は統治や権威や正当性の象徴です（詩篇24篇）。正しい羊飼いは神の摂理を通して任された羊を世話する責任感があります。

②羊たちとの親密さ

門番は牧者のために門を開き、羊たちはその声を聞き分けます。牧者は自分の羊たちを、それぞれ名を呼んで連れ出します。（ヨハネ10・3）

良い羊飼いは、羊たちそれぞれの名前を知っており、それぞれに呼びかけます。個人的な親しい交わりを持ち、その人の性質や特徴、生活を知り、人格的な親密さをもっています。

③羊たちの先頭に立つ

羊たちをみな外に出すと、牧者はその先頭に立って行き、羊たちはついて行きます。彼の声を知っているからです。（ヨハネ10・4）

羊飼いは、先頭に立って緑の牧場・いこいの水のほとりへと導きます（詩篇23・１－２）。羊は目が悪いので誰かがお手本となって導く必要があります。羊飼いは自分が最初に海に飛び込むファーストペンギンです。

④門となって羊を守る

そこで、再びイエスは言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしは羊たちの門です。わたしの前に来た者たちはみな、盗人であり強盗です。羊たちは彼らの言うことを聞きませんでした。
わたしは門です。だれでも、わたしを通って入るなら救われます。また出たり入ったりして、牧草を見つけます。（ヨハネ10・7-9）

羊飼いは羊を守ります。群れの外から「狂暴な狼」が入り込むこともあり、群れの中からも「いろいろと曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たち」が出現します（使徒20・28-30）。内側からも外側からも守らなくてはいけないのです。

⑤羊のためにいのちを捨てる

盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。
わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。
（ヨハネ10・10-11）

良い羊飼いは羊がいのちを得るため、自分はいのちを捨てます。羊飼いの心がある人は、自分を犠牲にすることを厭いません。その究極は大牧者イエスの十字架です。

牧者でない雇い人は、羊たちが自分のものではないので、狼が来るのを見ると、置き去りにして逃げてしまいます。それで、狼は羊たちを奪ったり散らしたりします。彼は雇い人で、羊たちのことを心にかけていないからです。（ヨハネ10・12-13）

卑しい利得を求めなくても羊飼いには報いがあります（１ペテロ５・２-４）。ただしいのちを捨てて良い相手は「割り当てられている人たち」（１ペテロ５・３）ですから、優先順位を注意しましょう。

⑥羊を連れ戻す

わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊たちがいます。それらも、わたしは導かなければなりません。その羊たちはわたしの声に聞き従います。そして、一つの群れ、一人の牧者となるのです。
（ヨハネ10・16）

良い羊飼いは、自分が連れ戻すべき羊を見分け、迷える羊を連れ戻します（ルカ15・４）。これは羊自身の未熟さゆえに迷い出てしまった場合です。

⑦父と一つになる

わたしの父がわたしに与えてくださった者は、すべてにまさって大切です。だれも彼らを、父の手から奪い去ることはできません。わたしと父とは一つです。」（ヨハネ10・29-30）

大牧者イエスは、羊は父から与えられたと言っています。羊飼いは羊の管理人ですが所有者ではありません。神の羊を預かっているだけなので好き勝手にはできません。

■牧会的な伝道

まだイエスを信じていない人々は、主の囲いの中にいる羊ではありません。しかし、主は当時まだ救われていなかった異邦人の群れを「この囲いに属さないほかの羊たち」と言いました（ヨハネ10・16）。また、アダム以降のすべての人類は神のもとから離れてしまった「迷える羊」でもあります。
まだ主の羊となっていない、もしくは潜在的に主によって選ばれている羊たちをあわれみ、世話し、そして主のもとに導くことは、牧会的な伝道と言えます。

牧会的伝道は２種類あります。

①迷える羊を見つけ出して神のもとに連れ戻す

羊飼い自身による伝道です。まだ主の羊となっていない、もしくは潜在的に主によって選ばれている羊たちをあわれみ、世話しながら、福音を伝えていきます。教会に新しく来た人を交わりの中に入れてあげて、群れの中で「同化」させていく場合もあります。

②母羊の出産を手伝う

教会メンバーが友人知人などに伝道するのを手伝います。伝道のための食事の際に同席したり、役割分担をしながら、チーム伝道できるようにします。